

# マテリアリティへの アプローチ

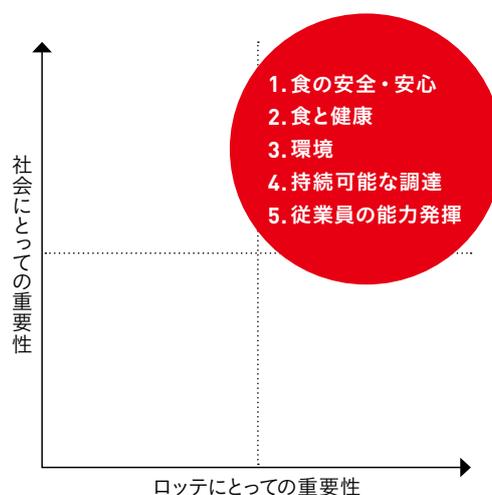
(株)ロッテは、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」という3つのロッテバリューをすべての企業活動の基本とし、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。近年では、持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、社会に及ぼす影響や事業活動における重要性をもとに、マテリアリティ(重要課題)を設定して事業活動を行っています。

## STEP 1

### マテリアリティの整理

持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、マテリアリティの整理を行い、事業活動を通じて取り組むべき課題を明確化しました。はじめに、ISO26000\*の7つの中核主題をもとに課題の把握を行い、部門横断のグループワークを複数回実施することで事業活動における重要性を討議し、課題を抽出しました。その後、抽出された課題をもとに、外部の有識者と幅広い視点で(株)ロッテに期待される取り組みについて意見交換を行いました。さらに持続可能な開発目標(SDGs)をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ、事業活動を通じて取り組むべきテーマを、「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」の5つに整理しました。

\* ISO26000: ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した、社会的責任に関する国際ガイダンス規格



安

食の安全・安心

建

食と健康

環

環境

結

持続可能な調達

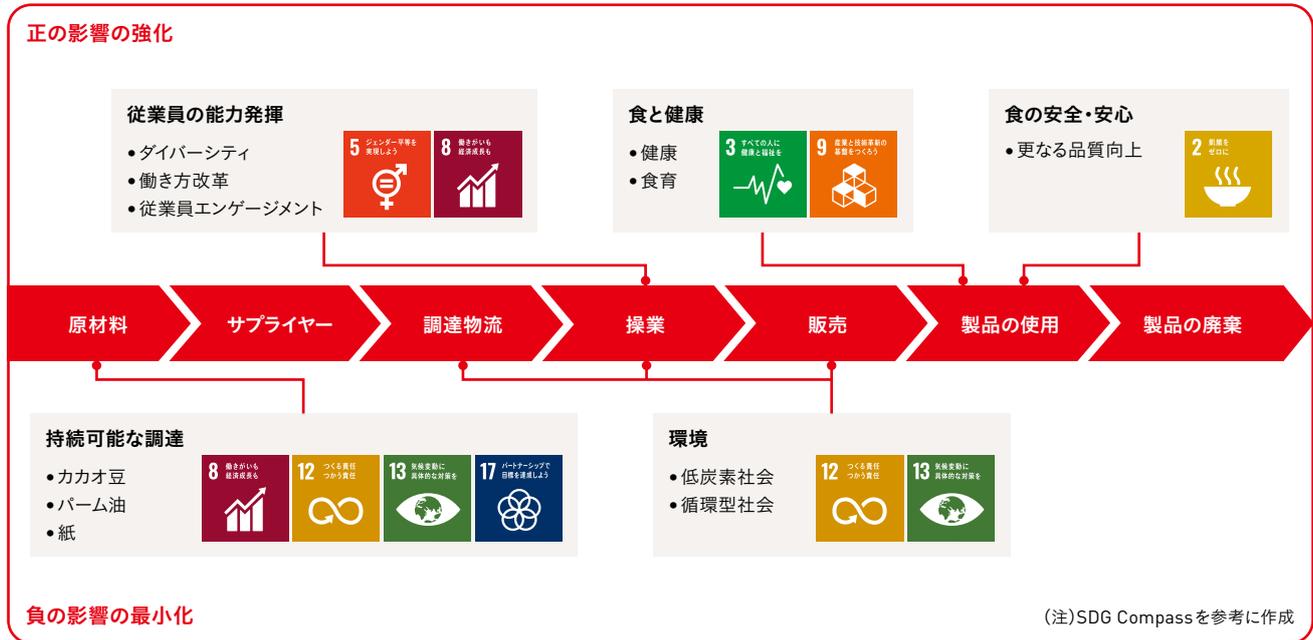
員

従業員の能力発揮



## STEP 2

### バリューチェーンにおけるマテリアリティマッピング



国連は2015年、貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき17のゴールとして「持続可能な開発目標 (SDGs)」を採択しました。SDGsは単なる期待目標ではなく、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現を目指す具体的な行動計画です。世界では今、SDGs達成とより良い世界の構築に向けて、企業が長期的視点に立った枠組みを策定し、積極的にサステナビリティに貢献することが期待されています。

(株)ロッテでは、各マテリアリティのバリューチェーン上での影響を分析し、それぞれのマテリアリティが「正の影響の強化」もしくは「負の影響の最小化」に貢献するかを特定しました。



## STEP 3

### ESG中期目標の策定

マテリアリティに具体的に取り組むために、ESG中期目標を策定しました。これらの目標はSDGsへの貢献を考慮して策定しており、SDGsを構成する17のゴールのうち、マテリアリティごとに(株)ロッテとして貢献できるゴールを定め、重点的に取り組んでいきます。また、目標の達成に向けて、毎年進捗を確認し、情報公開に努めていきます。



# 2028 ESG 中期目標

マテリアリティ	取り組み項目	指標	2019年度実績
1 食の安全・安心	 更なる品質向上	GFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)	認証維持  P46
		ロッテ新品質保証システム LOTTE ADVANCEの導入	各工場の 実態把握完了  P46
2 食と健康	 健康	「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)	<b>21%</b>  P49
		歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)	<b>32%</b>  P51
		製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)	<b>2,436万人</b>  P52
		食育	食育体験者数 <b>6.3万人</b>  P53
3 環境	 循環型社会	低炭素社会 エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(Scope1、2)削減率(2013年度比 原単位)	<b>7.1%削減</b>  P36
		FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量削減率(2019年度比 原単位)	FLW発生量 <b>2.9千t</b> (原単位 0.011)  P38
		生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率	<b>99.2%(国内)</b>  P38
4 持続可能な調達	 紙	カカオ豆 フェアカカオ使用率	<b>4.0%</b>  P42
		パーム油 第三者認証油使用率	<b>0.0%(国内)</b>  P43
		紙 環境に配慮した紙使用率(容器包装)	<b>93.1%(国内)</b>  P44
5 従業員の能力発揮	 働き方改革	ダイバーシティ 女性管理職比率(国内)	<b>5.1%</b>  P28
		従業員エンゲージメント 働きがいを感じている社員割合(国内)	<b>60.1%</b>  P31
		働き方改革 一人当たり年間総労働時間(国内)	<b>1,977時間</b>  P29

この度、ESG中期目標について2点の見直しを行いました。1点目が目標の追加で、マテリアリティ「食と健康」に「歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)」という目標を新設しました。これにより、「むし歯のない社会へ」という社会課題への貢献を今後も推進していきます。また、キシリトールは、甘いものはむし歯の原因になるというこれまでの常識を覆したイノベーションによるCSV(共通価値の創造)の代表例であり、イノベーションによる新たな価値提案へチャレンジし続ける私たちの姿勢(ロツテナベーション)をこの目標によって明確にしました。2点目はFLW(食品ロスおよび食品廃棄物)に関する目標の見直しです。2019年にスタートした10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ\*日本プロジェクトに参加しており、当該プロジェクトとFLWの報告基準を統一するために、計測方法および目標の見直しを行いました。目標達成に向けた推進担当者のコメントをP12以降で紹介しています。

\* 10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ

地球環境と開発に関する政策研究・技術開発を行うアメリカのシンクタンク World Resources Institute(WRI)の呼びかけのもと、サプライチェーン全体で食品廃棄物の半減を目指すイニシアティブです(P39参照)。

2020年の主な取り組み	2023年目標	2028年目標	SDGsへの貢献
<ul style="list-style-type: none"> <li>認証維持および運用</li> </ul>	国内外全工場 認証維持	国内外全工場 認証維持	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新品質基準の文書化推進</li> </ul>	国内外全工場へ 導入完了	国内外全工場 継続運用	
<ul style="list-style-type: none"> <li>エビデンスの取得と発信</li> <li>自治体との連携</li> </ul>	<b>35%以上</b>	<b>50%以上</b>	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>キシリトールの機能理解促進</li> </ul>	—	<b>50%以上</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな健康価値を持つ製品の開発</li> </ul>	<b>3,456万人以上</b>	さらに拡大を 目指す	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>工場見学のリノベーション着手</li> <li>出張授業の検討</li> </ul>	年間 <b>10万人以上</b>	年間 <b>15万人以上</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ機器の導入</li> <li>工場への再生エネルギー導入</li> </ul>	<b>13%以上削減</b>	<b>26%以上削減</b>	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>賞味期限の年月表示化</li> <li>リユース拡大(フードバンクへの寄付)</li> </ul>	—	<b>50%以上削減</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内工場廃棄物のリサイクル徹底</li> </ul>	<b>99%以上</b> (国内)	<b>99%以上</b> (国内+海外)	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>フェアカカオの調達拡大</li> <li>新たな生産地支援活動の検討</li> </ul>	<b>20%以上</b>	<b>50%以上</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者認証油調達開始</li> </ul>	<b>100%</b> (国内)	<b>100%</b> (国内+海外)	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した紙の調達拡大</li> </ul>	<b>100%</b> (国内)	<b>100%</b> (国内+海外)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職へのダイバーシティマネジメント研修</li> <li>男性の育児休暇取得推進</li> </ul>	<b>10%以上</b>	<b>20%以上</b>	 
<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟な働き方ができる制度の検討と導入</li> <li>ICTインフラの整備</li> </ul>	<b>1,850時間以下</b>	<b>1,800時間以下</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>職場別の課題把握と改善アクション</li> </ul>	<b>80%以上</b>	<b>80%以上維持</b>	

# 1

## 食の安全・ 安心



### 基本的な考え方

製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であることはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それらすべてを私たちの実現すべき「品質」としてとみなし、全従業員で取り組んでいます。今回は、更なる品質向上を目指した新品質保証システムLOTTE ADVANCEについてご紹介します。

### 更なる品質向上

GFSI 承認スキーム (FSSC22000 / BRC)

P46

2023年目標

2028年目標



国内外全工場で認証維持

ロッテ新品質保証システムLOTTE ADVANCEの導入

P46

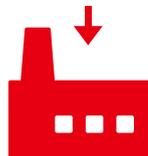
2023年目標

2028年目標

国内外全工場へ  
導入完了

国内外全工場で  
継続運用

LOTTE ADVANCE



## 更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指して

### 安全な食品をお届けし、安心して召し上がっていただくことは、食品メーカーとしての基本

(株)ロッテでは、品質方針および食品安全方針に基づき、日々の品質への取り組みを行っています。お客様に安全な食品をお届けし、安心して召し上がっていただくことは、食品メーカーとしての基本だと考え、国際的な食品安全認証であるGFSI\*1承認スキーム(FSSC22000\*2／BRC\*3)認証を取得し、運用しています。今後、更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指して新品質保証システムLOTTE ADVANCEを構築中で、GFSI承認スキーム認証をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001\*4の設計開発システムの考え方と、独自の高い品質や安全のルールを取り入れる予定にしています。

これまで私たちは、主に製品の製造工程に注力して安全・安心の取り組みを徹底して行ってきました。例えば、

異物の混入を防ぐことや、出来上がった製品が基準を満たしているか出荷前に確認することなどです。新たに構築するLOTTE ADVANCEでは、製品の設計開発の段階から食品安全に関するリスクを評価するシステムを導入し、バリューチェーン全体でこれまで以上に幅広い視点でリスク低減に取り組みます。さらに、地域や製造している品目によって異なっていた品質や安全のルールも高いレベルでの統一を行います。

### LOTTE ADVANCE



### 大切にしていることは、きちんと運用と確認ができる仕組みであること

LOTTE ADVANCEを構築する上で大切にしていることは、きちんと運用と確認ができる仕組みであることです。いくら厳格なルールを作っても、それが現場で適切に実行され、また、客観的に確認できるものでないと、お客様に安全・安心をお約束することはできません。もちろんLOTTE ADVANCEの構築後には、どのような仕組みで、どのように運用され、そして確認が行われているのかを、ホームページなどを使ってお客様にも分かりやすくお伝えしていきたいと考えていますので、どうぞご期待ください。引き続き、お客様に更なる安心をご提供することが私の使命と考えて、日々取り組んでいきます。

- \*1 GFSI：世界食品安全イニシアチブ(Global Food Safety Initiative)の略。食品安全システムの継続的改善を目的に2000年5月に設立された国際的な非営利団体。
- \*2 FSSC22000：食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を追加要求事項で補強した世界標準の食品安全規格。
- \*3 BRC：英国小売業協会(British Retail Consortium)の略。同協会が食品安全のための第三者認証のスキームを運用している。
- \*4 ISO9001：一貫した製品・サービスを提供し、顧客満足度を向上させるための品質マネジメントシステムに関する国際規格。

株式会社ロッテ  
品質保証本部 品質保証部 食品安全管理担当部長

#### 澤田 亮尚

#### Profile

1991年、(株)ロッテ入社。チョコレートの開発研究や新製品のマーケティングに携わった後、2010年より滋賀工場で品質管理の責任者を務める。2015年から本社で品質保証の業務に従事。2017年より現職で、食品安全に関わる責任者として、LOTTE ADVANCEの構築を指揮



# 2

## 食と健康



### 基本的な考え方

私たちは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈夫で健康に保つという新しい健康価値を生み出し、社会に貢献してきました。引き続き、身体はもちろん、心の健康にも役立つ製品の研究・開発や情報発信・啓発活動に注力し、私たちが大切にしてきた「おいしさ」を軸に、食で健康価値を提供し、社会課題の解決に貢献していきます。今回は、そうした活動の一例として(株)ロッテの食育活動についてご紹介します。

### 健康

「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)

P49

2023年目標

35%以上



2028年目標

50%以上



歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)

P51

2028年目標

50%以上



製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)

P52

2023年目標

3,456万人以上



### 食育

食育体験者数

P53

2023年目標

年間10万人以上



2028年目標

年間15万人以上



## ESG中期目標の達成に向けて工場見学のリニューアルと出張授業へ取り組む

### 地域の皆様に愛され、地域の発展にもお役に立てるような工場見学を目指す

(株)ロッテでは、食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に取り組んできました。工場見学や食育セミナー、小学校への教材提供などの食育の機会を通して、2019年度はおよそ6万人もの方々にご参加いただきました。さらに、現在、食育推進部ではESG中期目標で掲げた食育体験者数の達成に向けて、さらに食育活動を充実すべく2つの準備を行っています。

1つ目が工場見学のリニューアルです。(株)ロッテの主力工場である浦和工場と狭山工場で見学を受け入れており\*、食の安全・安心についての現場を実際に見学していただくとともに、環境への取り組みなどをご説明しています。この2工場は、立地に恵まれており、首都圏からのアクセスが良く、多くの見学者様にご来場いただいています。一方で、施設の老朽化などの課題を抱えており、ESG中期目標の達成に向けて刷新を行っています。

### 出張授業を通じて私たちの存在意義を見つめ直す良い機会となることを期待

2つ目が出張授業への挑戦です。これまで、(株)ロッテでは小学校への教材提供が中心で、出張授業はわずかしか行っていませんでした。一方で、学習指導要領が改訂されるなど、学校における食育の重要性が増しており、食品メーカーである私たちがお役に立てることが少なからずあるのではと思い、新たに出張授業に挑戦することを決めました。

出張授業を多くの学校で展開するためには、講師の確保が課題です。この課題の解決策として、社員の講師化を計画しています。負担が偏らないように、広く様々な部署の社員に

工場見学の刷新にあたって最も大切にしていることは、きちんと食に関する体験学習の場としての役割を果たすことです。稼働している製造設備を間近でご覧いただきながら理解を深めていただくことが一番良いのですが、メンテナンスなど生産の都合で稼働していない場合もあります。そのような時でも映像等で補完し、見学体験をお届けできるよう、最新技術を活用した見学設備を導入する予定です。

こうした最新技術の活用による感動体験をお届けすることで、地域の皆様に愛され、地域の発展にもお役に立てるような工場見学を目指していきます。まずは、2021年中のリニューアルオープンを目指して浦和工場の刷新に取り掛かっています。是非ご期待ください。

\* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年2月より工場見学を休止しております。再開時期については、決まり次第ホームページでお知らせします。

講師となってもらい、学校へ派遣します。この取り組みにより、社員自身が食育やESG経営についての理解を深めるとともに、普段なかなか接点のない消費者の方々と直接触れ合うことで、私たちの存在意義を見つめ直す良い機会となることを期待しています。



株式会社ロッテ  
経営戦略本部 食育推進部長

**池田 なつき**

#### Profile

1998年、(株)ロッテ入社。中央研究所にてチューインガムおよびキャンディの研究開発に携わる。2019年より現職で、新設された食育推進部の立ち上げを行っている

# 3 環境



## 基本的な考え方

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任の1つと捉えています。中でも「低炭素社会」と「循環型社会」の実現に向けた貢献を重点的に取り組む課題と位置付けています。今回は、そうした活動の一例として工場でのCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みについてご紹介します。

## 低炭素社会

エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量(Scope1、2)削減率

P36

2023年目標



2028年目標



(注) 2013年度比 原単位

## 循環型社会

FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量削減率

P38

2028年目標

50%以上  
削減



(注) 2019年度比 原単位

生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率

P38

2023年目標

99%以上  
(国内)



2028年目標

99%以上  
(国内+海外)



## CO<sub>2</sub>排出量削減を通じて、財務・非財務の両面から企業価値向上に貢献していく

### 従来の延長線上では目標達成は難しく、より一層の挑戦が必要

グループのエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は(株)ロッテの工場が半分以上を占めており、ESG中期目標の達成のためには工場での取り組みが不可欠です。これまで、地道な省エネルギー活動や生産拠点の統廃合による効率化などを進めてきましたが、従来の延長線上では目標達成は難しく、より一層の挑戦が必要と感じています。この解決策として、(株)ロッテの工場が進めているのが再生可能エネルギーの導入とエコファクトリー化です。

再生可能エネルギーの導入は、すでに(株)ロッテの本社ビル(新宿区)で2019年4月よりスタートしており、発電の際にCO<sub>2</sub>を排出しない水力発電由来の電力を調達しています。2020年からは段階的に工場でも導入を進め、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量を削減するとともに、国内における再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。

### エネルギーコスト削減にも注目して社内外に発信していきたい

一方で、すべてのエネルギーを再生可能エネルギーに転換することは、コストや供給の面から時間がかかります。そこで、エネルギーを効率よく使用することが必要なのですが、これまで地道に行ってきた無駄を徹底的に排除する省エネルギー活動は継続していくものの限界があり、抜本的な効率化に挑戦せねばなりません。そこで、私たちが取り組んでいるのが工場のエコファクトリー化です。(株)ロッテには高いエンジニアリング技術が蓄積されており、その経験とロッテバリューで掲げている「オリジナリティ(独創性)」のあるアイデアに、最新技術を組み合わせる独自のイノベーション「ロッテノベーション」に挑戦しています。例えば、浦和工場のチョコレート生産ラインに導入した新空調システムは、空間全体を冷却するのではなく、生産ラインや働く人のいる空間下部のみを冷却することで、温度管理が非常に重要な生産ラインでも大幅な省エネを実現することができました。また、狭山工場の製品倉庫では、従来のパレットよりも大幅に厚みを圧縮したシー

トパレットをタブレット端末や遠隔監視システムとともに導入し、積載効率の向上や省人化、出荷作業の時間短縮などを実現しています。これにより、自社はもちろん、物流における効率化にも貢献できました。

エコファクトリー化では、エネルギー効率の向上はもちろん、それに伴うエネルギーコスト削減にも注目して社内外に発信していきたいと思っています。これによって私が目指しているのは、エコファクトリー化をきっかけに、ESGに関する取り組みが非財務だけでなく財務と一体となって企業価値の向上に貢献するものだということを社員一人ひとりに理解してもらうことです。

株式会社ロッテ  
生産本部 技術開発部長

#### 内藤 克明

##### Profile

1989年、(株)ロッテ入社。浦和工場にて生産設備の導入や保全等の工場設備関連業務に広く携わる。2018年より現職で、新設された技術開発部の責任者として、各工場の生産設備の標準化や最適化、エコファクトリー化を推進中



# 4

## 持続可能な 調達



### 基本的な考え方

高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。これを実現するため、取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。今回は、そうした活動の一例としてカカオ豆の調達活動についてご紹介します。

### カカオ豆

#### フェアカカオ使用率

P42

2023年目標

20%以上



2028年目標

50%以上



### パーム油

#### 第三者認証油使用率

P43

2023年目標

100%  
(国内)



2028年目標

100%  
(国内+海外)



### 紙

#### 環境に配慮した紙使用率(容器包装)

P44

2023年目標

100%  
(国内)



2028年目標

100%  
(国内+海外)



## 産地の経済的・社会的発展を支援することで、カカオ豆のサステナビリティに貢献する

### カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する活動を推進

カカオ豆の約7割を生産する西アフリカ地域では、森林の伐採や不適切な農薬の使用による生態系や環境の破壊、また、劣悪な労働環境や子どもたちが労働力とみなされて就学の機会を失うなど、様々な社会・環境問題が指摘されています。

カカオ豆を主原料とするチョコレートが主力製品である私たちは、カカオ豆の将来にわたる安定調達を実現するためにも、この問題に真摯に向き合い、対処していく必要があると考えています。

そのため、(株)ロッテでは、カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する活動をFAIR CACAO PROJECT(フェアカカオプロジェクト)と名付けて推進しています。この活動は調達活動と生産地支援の大きく2つに分けられます。

### サステナブルな好循環を生み出す仕組みを目指して

2つ目の生産地支援についてです。私たちはカカオ豆から製造する国内で数少ないチョコレートの一貫メーカーですが、世界のカカオ豆の流通量からするとその調達量はごくわずかで、私たちだけでできることは限られています。そこで、国内外の業界団体と協力して生産地の支援活動を行っています。一例を挙げますと、カカオ農家を支援しサステナブルなカカオのサプライチェーンの実現を目指し2000年に設立された会員制の国際団体World Cocoa Foundation(WCF 世界カカオ財団)に加盟し、カカオ農家の技術支援や、劣悪な労働環境の是正、児童労働のない社会の実現を目指した活動に協賛しています。

1つ目の調達活動についてですが、サプライヤーや生産地域の協力を得ながら地域指定購入を始めました。これは、高品質なカカオ豆を安定して調達するとともに、カカオ豆の購入代金の一部をその地域に還元するシステムを構築し、支援をしながら調達を行うものです。このように調達したカカオ豆をフェアカカオと名付けて、その調達割合の拡大をESG中期目標で掲げています。今後は、目標の達成に向けて、これまでの活動をさらに推進するとともに、政府機関、カカオ生産国企業との協業や私たち自身がサプライチェーンの上流で活動することも検討していきます。



今後は、これら生産地支援と調達活動を一体化するロッテ独自の取り組みも検討していきます。カカオ農家、生産地域への支援を行うとともに、サプライチェーン全体の問題に向き合い、カカオ豆の品質や収穫量の向上が農家の収入向上につながり、さらに農業技術が高まっていくというようなサステナブルな好循環を生み出す仕組みを目指していきます。また、このカカオの取り組みをきっかけに、社員一人ひとりが社会と私たちロッテのサステナビリティについて考える機会になればと思います。



株式会社ロッテ  
生産本部 資材部長

**佐々木 敦**

#### Profile

1988年入社し、(株)ロッテおよび関連会社にて貿易業務や不動産開発等に従事。1994年から現部署にてチョコレート原料を担当。2013年より現職で、原材料の調達・購買業務と持続可能な調達活動を統括

# 5

## 従業員の 能力発揮



### 基本的な考え方

事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展へとつなげていきます。今回は、そうした活動の一例としてダイバーシティの取り組みについてご紹介します。

### ダイバーシティ

女性管理職比率 (国内)

P28

2023年目標

10%以上



2028年目標

20%以上



### 働き方改革

一人当たり年間総労働時間 (国内)

P29

2023年目標

1,850時間  
以下



2028年目標

1,800時間  
以下



### エンゲージメント

働きがいを感じている社員割合 (国内)

P31

2023年・2028年目標

80%以上



## まずは女性活躍から、そしてあらゆる人が働きやすい会社へ

### 多様性こそが私たちの競争力の源泉であり、ロETTEノベーション創出の原動力

ダイバーシティを推進する理由は、多様性こそが私たちの競争力の源泉であり、ロETTEノベーション創出の原動力だからです。戦後に創業した後発メーカーである私たちは、差別化によるイノベーションによって成長してきました。しかしながら、市場が成熟し、外部環境が激変する今日では、従来通りのやり方のままではイノベーションの創出は難しくなっており、性別や年齢、国籍等に関係なく多様な人材が持てる能力を発揮できる環境を整えることが不可欠だと感じています。例えば、私たちの事業の中心である菓子やアイスクリームをご購

入いただいているお客様の多くは女性です。また、年代の切り口で見ると、私たちの事業はお子様からシニア世代まで幅広い世代をお客様にするビジネスです。マーケットも国内に限らず海外まで広がっています。このような事業環境下では、意思決定の場に女性をはじめ様々な意見を持つ人が関わることの重要性をマーケティングの仕事をしている頃から感じていました。ダイバーシティを推進することによって、お客様の共感を得る力や、ロETTEノベーションを創出する力を支えていきたいと考えています。

### 人材育成や風土改革も併せて進めていく

国内グループの女性管理職比率は5.1%と、ESG目標として掲げた20%とは大きく乖離しているのが現状です。これまで、出産や育児などのライフイベントを経ても働き続けることができるように制度面の充実を行っており、(株)ロETTEの両立サポート体制は、法律で定められているよりも充実したものになっています。一方で、復帰した社員がキャリアを描くためには人材育成や風土改革も併せて進めていかなければなりません。例えば、責任の重い仕事を任せてはかわいそうだといった間違った善意の配慮から、ライフイベントを迎えた女性に責任ある仕事を任せないという例もあり、結果として女性管理職やその候補が少なくという状況を招いています。この状況を変えるべく、育児期社員を部下に持つ管理職を対象とした研修を行い、マネジメントによる活躍支援の後押しをしていきたいと考えています。また、男性社員の育休取得推進を行い、ライフイベントが女性だけのものという意識を変えるとともに、業務の属人化

を改善し、職場のチームワーク形成を促していきます。さらに、男性も育児に参加することを通して、私たちのビジネスそのものを考え直すきっかけになり、新たなイノベーションが創出されることを期待しています。

現在は、女性活躍にフォーカスして取り組みを行っていますが、女性はもちろん、男性も、育児や介護中の方や体調に不安のある方等も働きやすい会社になることを目指して取り組んでいます。また、今後は、障がいのある方や外国籍の方、LGBTの方などあらゆる人材が働きやすく、持てる能力を発揮できる職場環境を目指していく予定ですので、是非ご期待ください。

株式会社ロETTE  
人事本部 いきいき活躍推進課長

### 森 若菜

#### Profile

2001年、(株)ロETTE入社。中央研究所にて食品成分の分析研究に携わる。その後、本社でチューインガムおよびチョコレートのマーケティング業務に従事。2019年より現職で、ダイバーシティ推進業務に携わりながら、自身も母親として仕事と子育てを両立中

